

第42回札幌くらぶサロン 低弦の魅力爆発 洪く豊かに歌うコントラバス

令和7年4月26日(土)、桜が満開直前の中島公園。夜の帳(とばかり)が下りるころ、公園内の豊平館では「第42回札幌くらぶサロン」の幕が上がりました(実際の幕はありません)。

今回は札幌交響楽団在籍32年の大御所(ベテラン)、大澤敬さんご出演のサロンです。桜の美しさと今宵の演奏への高まる期待で私も心なしか浮き浮きした気持ちで会場に向かいました。そして洪く冷静沈着で卓越したコントラバスの演奏を十二分に堪能することができました。伴奏は名ピアニストの奥様。

譜めくりはご夫妻の素敵なお嬢様。アットホームな愛情溢れる素晴らしいサロンで、演奏の中での曲の解説と楽器の歴史について解説まで入って、至れり尽くせりの充実したプログラムでした。

【第一部】サロンセミナー

札幌を10倍楽しむために

コントラバス編

ペルゴレージ、クリスチャン・バッハ、ボツテジーニの作品。ペルゴレージとクリスチャン・バッハ(大バッハの末子)は18世紀の作曲家。ボツテジーニは19世紀の作曲家です。最初、無知で

老眼の私は恥ずかしながらボツテジーニと勘違いしておりました。大澤さんの説明でボツテジーニとわかりましたが以前、下川朗さんご出演のサロンで聞いた作曲家ですね。大変な難曲だったとの印象が鮮烈に残っておりました。「コントラバスのパガニーニ」の異名を持ち、コントラバス奏者の他に、作曲家・指揮者として活躍した音楽家。今回演奏された、第一部の3曲は低弦が鳴り響く、どちらかというところの曲調でしたが、低音域のメロディーを淡々と朗々と奏でる大澤さんのお姿に、日本の古武士の風格すら感じたのは私だけでしょうか。大澤さんの演奏には、ただ上手いだけではない、空想の世界を彷彿とさせる閃きが感じられたのです。コントラバスの起源についてのレクチャー。ヴィオラ・ダ・ガンバ属の楽器でヴィオローネが先祖にあたるそうです。

大澤 敬さん



【第二部】サロンコンサート

歌の名曲を朗々と豊かに歌う優れた演奏。シューベルト作曲「音楽に寄せて」。ヴィルヘルム・ミュラーの詩に作曲された

「菩提樹」。かつて私はウィーンでその場所を訪れた経験があるのですが、決して華やかなキラキラ輝く存在ではなかったと記憶しています。シューベルトのあまりに美しい音楽をコントラバスが「歌うように演奏する」なんてただただ驚嘆の一言でした。バッハの平均律クラヴィア曲集の冒頭部分を伴奏に用い、グノーが作曲した「アヴェ・マリア」。「ロンドンデリー」は北アイルランドの県の名前(今回大澤さんのご説明で初めて知りました)。複雑に編曲されている伴奏は素朴なメロディーを多様に支えておりました。「島唄」は、



大澤敬さんご一家と
下川朗さん



札幌専務理事・荒木太郎さんの乾杯で
交流パーティーが開宴



会員/松本良一



河邊俊和さん
原香奈恵さん

沖繩の平和を願う歌。平和の願いは届いたと思います。

【第三部】交流パーティー
ヴァイオリンの河邊さん、ヴァイオリンの原さんのスピーチもあり、日ごろの練習の厳しさを微塵も感じさせない雰囲気。「札幌とクラシック音楽を語る至福の時間」となりました。コントラバスの下川朗さんの締めめの挨拶で閉会。今回もすごく楽しかったですね。

6月〜9月 定期演奏会 HIRORO シリーズ 名曲コンサート

演奏会を楽しく聴くために

八木 幸三 (札幌くらぶ顧問)

名曲コンサート

6月8日(日) 14:00
指揮 マティアス・パーメルト

■モーツァルト

交響曲第39番
交響曲第40番
交響曲第41番

「ジュピター」

モーツァルトの(最後の3大交響曲)は、1788年夏の約3ヶ月間という短期間で立て続けに作曲された。どのような目的で作曲されたかは現在も謎だが、困窮した生活を支えるためのおそらく予約演奏会のために書かれたものと考えられる。以前には、作曲者の生前に演奏されなかったのではないかと推測もあつたが、モ



マティアス・パーメルト

2025年2月 第667回札幌定期演奏会より

ーツァルトは実際の音を聴いた後、手直しもしているようだ。明るく優美な響きを湛えている第39番の第1楽章は「リンツ交響曲」以来、交響曲にゆるやかな序奏を置き、いつそう高い完成度で進化した。序奏後の作曲者得意の「歌うアレグロ」が流れ、明朗で優美な旋律が流麗に駆け抜けていく。心を癒してくれるようにはじまる第2楽章は、短調部分で激しい情感を抱きながら、再び穏やかさが戻る。第3楽章は、堂々としたメヌ

エットの壮麗さに挟まれたトリオが至高の美しさを感じさせ、完璧ともいえる構成美を持つ終楽章が、躍動する音楽の世界を繰り広げていく。

第40番は、彼の交響曲中でわずか2曲という短調作品。あの悲しくも美しい旋律ではじまる第1楽章は、聴き手に強烈な印象を与え、それまでの快活で明朗な古典派音楽とは一線を画するロマンティックな雰囲気漂わせている。当初は、フルート、オーボエ、ファゴットだった木管楽器は、後に作曲家自身が当時新しい楽器だったクラリネットを加え、より豊かなオーケストレーションで仕上げた。

第41番は、第1楽章にはじまる気宇壮大な音楽がいやがうえにもその期待を大きくふくらませる。静かな中にも深い情感が溢れる第2楽章の対位法的展開部は、終楽章の壮大なフーガを予見させ、快活なメヌエットを経て壮麗な終楽章へと突き進んでいく。「ジュピター」という副題は、作曲家自身つけたものではないが、ローマ神話の最高

神の名の通り、その典雅で堂々としたこの作品にふさわしいものだろう。



フォルクハルト・シュトイデ

HIRORO シリーズ

定期演奏会第22回
6月19日(木) 19:00
コンサートマスターと
ヴァイオリン独奏
フォルクハルト・シュトイデ

■モーツァルト

ヴァイオリン協奏曲

第5番「トルコ風」

モーツァルトは19歳の1775年にザルツブルグで、5曲のヴァイオリン協奏曲を集中的に作曲し、その中でも最高傑作と呼ばれているのがこの第5番である。当時ウィーンでは、オリエンタルな雰囲気醸し出すト

ルコ音楽がブームだったよう
で、この曲の第3楽章メヌエツトには、特徴的な東洋風なリズムと旋律による「トルコ風」と呼ばれる中間部があり、この曲の題名ともなっている。

■ジョン・ウィリアムズ

「シンドラーのリスト」より

3つの小品

映画音楽の巨匠ジョン・ウィリアムズは、ルーカスやスピルバーグの大ヒット作品の音楽を担当したことで有名だが、交響曲や協奏曲も手がけ、ポストン・ポップスオーケストラの指揮者も長らく務めた。近年、ウィーン・フィルと自作曲を指揮したTVをご覧になった方も多いことだろう。米アカデミー賞7部

門を受賞した映画「シンドラーのリスト」は作曲賞も受賞し、ヴァイオリン独奏は名匠パールマンが演奏した。ホロコーストの悲劇と多くのユダヤ人を救った勇敢なドイツ人の物語が、この美しい音楽によって叙情豊かに語られる。

■ドヴォルジャーク

交響曲第8番

ドヴォルジャークは、それまで作品を出版していたジムロック社と折り合いが悪くなりイギリスのノヴェロ社からこの曲を出版した。そのため「イギリス」という愛称が付けられていたが、作品の内容はイギリスとは関係なく、現在ではほとんどこの愛称は使われていない。序曲「自然の王国で」同様ヴィンソカーの別荘で書かれ、ドヴォルジャークの交響曲の中でも最もボヘミアの国民主義的色彩が濃厚な作品となっている。全体の構成は、ウィーン古典派の交響曲とはかなりかけ離れ、独創的で即興風などところもあり、交響詩的ととらえる見方もあるほどだ。第3楽章は哀愁をおびたスラヴ舞曲風の旋律が優雅に奏でられTVのCMなどでご存じの方も多いことだろう。



エリヤス・グランディ

© Yasuo Fujii

ドン・キホーテの奇行を次々に音楽で描いていく作曲家7番目の交響詩は、「大管弦楽のための騎士的な性格の一つの主題による幻想的変奏曲」と作曲家自らが楽譜に書き込んでいようように、「序奏、主題」と10曲の変奏、さらに終曲で構成されている。拡大された3管編成の管弦楽の機能を十全に展開させ、ドン・キホーテは独奏チェロ、従者サンチョは独奏ヴィオラ、さらに空想上の貴婦人ドウルシネアをオ

「ボエが奏でていく。小説「ドン・キホーテ」の現実と空想の世界、意思と可能性との二面性を巧みに対立させ、主役のかげみずの奇行をシュトラウスの優れた管弦楽法で色彩豊かに、しかもユーモラスに描いている。」
■ラヴェル
「ダフニスとクロエ」
第1組曲、第2組曲
ダフニスとは、クロエの愛を得るため牛飼ドルコンに勝ち、

第1組曲は、恋人たちが引き裂かれてしまった後の情景を描く「夜想曲」で開始され、海賊たちが勝ち誇って舞う「闘いの踊り」で閉じられる。第2組曲は、「夜明け」からはじまり「無言劇」「全員のパル」をバレエ音楽第3部のほとんどがそのまま使われている。

オペラは1曲しか残さなかったベートーヴェンだが、付随音楽など劇伴音楽に興味があった訳ではなかった。唯一のオペラである「フェリア」の公演が立て続けに失敗した翌年に宮廷詩人で劇作家のコリンの演劇がまったたく音楽を付けず上演されていることを残念に思ったベートーヴェンは、自ら進んで作曲を申し出た。ローマ神話の英雄コリオラスの悲劇を内容とするこの戯曲に共鳴した彼は、同時に作曲していた交響曲第5番同様「ハ短調」で序曲を書き上げた。ただ、この序曲が舞台上演された記録はない。悲劇の文学的内容に触発されて書かれたこの曲は、演奏会用序曲として交響詩的な性格さえ持っている。

作曲家円熟期のいわゆる「傑作の森」の中で書かれたこの曲は、それまでの古典派音楽の協奏曲の様式や概念を超えたロマン派音楽の協奏曲を予告するような特徴を持っている。まず、管弦楽はますます交響曲的になり、ピアノ独奏はオケに対峙し、さらに渾然一体となるようなピアノ独特の機能を十分に発揮させている。第1楽章冒頭で直ちにピアノが第1主題を提示するというこれまでにはない画期的な開始方法や第2楽章が終わると、そのまま第3楽章に入っていくなど新しい試みが多くみられる。独創的な創意や工夫は、そのまま第5番「皇帝」にもつながっているのだ。

米国の作曲家で「ミニマル・ミュージック」を提唱したジョン・クーリッジ・アダムズは、グラスやライヒ、ライリーのような純然たるミニマリストとして知られていたが、成熟期の作品ではミニマル・ミュージックが色彩的な和声のパレットと豊かな管弦楽法に結び付いていた。そのため新ロマン主義的傾向も見られ、その音楽は厳密には「ポスト・ミニマル」と見なされている。作品には調性を感じさせるものが多く、この作品もシェーンベルクに捧げつつも調性システムの完全な肯定に向かっており、交響曲の醍醐味をアダムズ流に表現した名曲となっている。

(写真提供 札幌交響楽団)

第670回定期演奏会
6月28日(土) 17:00
29日(日) 13:00
指揮 エリヤス・グランディ
チェロ ユリアン・シュテツケル
ヴィオラ 近衛剛大

■R・シュトラウス
交響詩「ドン・キホーテ」



© Marco Borggreve

↑ユリアン・シュテツケル

→近衛剛大



© Daniel Delang

■ベートーヴェン
序曲「コリオラン」

第671回定期演奏会
9月6日(土) 17:00
7日(日) 13:00
指揮 下野竜也
ピアノ アンヌ・ケフェレック



下野竜也 © Shin Yamagishi



アンヌ・ケフェレック © Caroline Dautre

■ベートーヴェン
ピアノ協奏曲第4番

■ジョン・アダムズ
ハルモニエーレ(和声学)

♪ 楽員さんに興味津津

42

かごたに はるか
トランペット副首席奏者 籠谷春香さんに聞く

ひとつひとつの音を大事にして



プロフィール

東海大学付属第四高等学校を経て、東京音楽大学を首席で卒業。第81回日本音楽コンクールトランペット部門第2位。併せて岩谷賞(聴衆賞)受賞。第14回東京音楽コンクール金管部門入選。第33回日本管打楽器コンクールトランペット部門第1位。併せて特別大賞ならびに内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、東京都知事賞を受賞。新進演奏家育成プロジェクト オーケストラ・シリーズにて、トマジのトランペット協奏曲を札幌交響楽団と共演。文化庁新進芸術家海外研修員としてドイツ国立カールスルーエ音楽大学にて研修を行う。これまでにトランペットを松田次史、津堅直弘、アンドレ・アンリ、高橋敦、栃本浩規、長谷川智之、ラインホルト・フリードリヒ、マルクス・クライン、フリードヘルム・ヴィーセッカーの各氏に師事。

食べ物につられて

旭川市で生まれ、その後父の転勤で少したけ兵庫県宝塚市で生活をしましたが、ほぼ記憶がないので札幌市出身ということにしています。

小学一年生の頃、近所のピアノ教室の看板を見て、「行きたい！」と言ったらしくピアノを始めることになりました。その先生がたまたま友人のお母さんだったのですが、厳しかったので練習を好きになれず、才能のなさにも気づいたのでピアノは小学生でやめようと思っていました。

私のいた小学校は3年生から少年団に入ることができたので、サッカーかバレーをやるかと思っていたのですが、親友に「スポーツは怪我をするからあぶないよ? スクールバンド(金管バンド)は毎週土曜日にハンバーガーを買ってもらえるから一緒に入らない?」と言われ、二つ返事で入団を決めました。結局、ハンバーガーは半年に一度しか買ってもらえず、嘘をつかれたと気づいたのはだいぶ経ってからでした。親友は私が食べ物につられて入団をするだろうとよんで嘘をついたようです。騙されたのは本当に悔しいですが、彼女のおかげで今の私があります(笑)。

入団するとマウスピースを吹くテストがあり、その結果で楽器が割り当てられました。第一志望はトロンボーンでしたが、大きいマウスピースを吹きこなすことができずコルネットになりました。コンクールには出ないバンドだったので、行事などに参加して楽しく過ごしました。



小学生の時

2006年5月
札幌シンフォニックプラスで共演

撮影 M. Sato

厳しい中学時代

中学校の吹奏楽部は全国常連校ですごく厳しいと聴いていたので、絶対に入らない!と思っていたのですが、周りの友人や先輩からだんだん外堀を埋められて入部することになってしまいました。大会前は9時から21時まで12時間ホールで練習するような学校です。顧問の先生がトランペットの方でもとても厳しく「若い時は練習時間がものを言う」と言われ、家に楽器を持ち帰って練習したフリをしたこともありますが、すぐにバレて

怒られたので、それからは真面目に練習をするようになりました(笑)。あの時が一番がむしやりに練習していたと思います。とても辛かったからこそ、その後の人生にだいぶ余裕が出たのかもしれない。

3年生の時、札幌プラスの中学生共演企画があり、私のいた中学校が選ばれて運よく出演できることになりました。札幌が市内の小学6年生を招待して行うKitaraファーストコンサートはまだ始まっておらず、中学生になってからは毎日の練習が忙し過ぎて札幌を聴きに行った事がなかったので、この共演が初札幌でした。曲はホルストの第二組曲。左に福田さん、右に前川さん、左後ろに松田先生、右後ろに佐藤さんという豪華なメンバーに囲まれて、ソロのパートを演奏させていただきました。今思えば当たり前なのですが、皆さん上手すぎてびっくりしましたし、そのうえ優しく「こう吹けばいいよ」とアドバイスくださったことを19年たった今でも鮮明に覚えています。

札幌との2度目の出会い

中学校の顧問の先生に勧められるがままに、より歴史のある全国常連校の東海大学附属第四高校に進学することになりました。家が遠かったので朝練習のために5時40分に家を出て、地下鉄とバスを乗り継いで2時間かけて登校、帰宅は23時です。厳しい中学校生活を過ごした私にとつては練習時間が短かったので辛くはなく、楽しい部活でした。

この頃から松田先生に習い始め上達を実感することが増えてきましたが、将来について何も考えていなかったの、これも勧められるがまま音大受験を目指しました。小学生で挫折したピアノは島方さんの奥様に習い始め、なんとか東京音楽大学に合格することができました。

ちょうどその年に東京音大のトランペット科は門下制度が廃止され、一人の先生だけでなく四人の先生に見ていただけるよ



うになったので、とてもいいタイミングで入学できました。

大学3年次で日本音楽コンクール2位をいただき、授賞式の際にコンサートマスターの会田莉凡さんと出会ったので、もう12年のお付き合いになります。今思えばこの時から「頑張ればプロの道に進めるかも？」と思うようになりました。

大学4年次には日演連新進演奏家育成プロジェクトの出演者に選んでいただき、札幌と2度目の共演することができました。皆さんが私を覚えていてくださっていたのがとても嬉しかったです。

コンクールで入賞するようになってからはエキストラとして様々なオーケストラに呼んでいただけるようになり、関東でフリーランスをしていた8年間でたくさんの経験をさせていただきました。

心が折れそうになった時

大学を卒業してからオーディションを何回も受けましたが全て不合格、お仕事の際も周りと比べては「私は下手になった」「もうだめかもしれない」と心が完全に折れそうになりました。薫にもすがる気持ちで受けたマスタークラスでライオンホル

ト・フリードリヒ先生に出会い、その時のレッスンを忘れられず、彼が来日するたびにレッスンを受け、もっと本格的に学びたいと思い文化庁の海外派遣に応募しました。演奏のDVDと共に私にはこれが足りない、こんな研修を受けてみたいとびっしり書いたレポートを提出しました。それが良かったのか、研修員に選出していただきドイツのカールスルーエ音楽大学に留学することができました。

ライオンホルト先生には心や体に無理のない奏法で吹くことやひとつひとつの音や音楽を大事にすることなどをレッスンだけでなく彼の演奏を通じて丁寧に教わり、マルクス・クライン先生のレッスンでは、徹底的に基礎を教わりました。息を吸って1音出そうとすると、「違う！もう一度！」と言われ、半年間1音だけのレッスンを続けました。音や音楽は息を吸うところから始まるんだ、とこっぴどく叱られ、今までどれだけ適当に楽器を吹いていたのかと痛感しました。

そして、どの先生にも「自信を持ちなさい」と常日頃から言われ、自分が思っている以上に私には自信が足りないのだと反省しました。レッスン前に「私は素晴らしいらしいトランペット奏者だ」

『私は選ばれてここにいる』と自己暗示をかけるように言われ、1年半を過ごしました。素敵な先生やクラスメイトに囲まれ、奏法を確立し、自信を取り戻すことができたドイツ生活は間違いなく私の人生のターニングポイントです。

あと半年留学を延長しようか迷っていた時に札幌でオーディションがあるとお聞きしました。このチャンスを逃したら絶対に後悔すると思いオーディションを受け、ありがたいことに仲間に入れていただけになりました。

ヴァイオリンと釣り

様々な楽団で演奏させていただいたなかで、札幌の方たちは断トツに優しくあたたかいです。おほかでこのびびりしていることが音にも出ているように感じます。自然に囲まれているのも要因の一つでしょうか。

実は札幌には「札幌ヴァイオリンクラブ(SVC)」がありま

は打楽器の大垣内さんと入川さん、トランペットの福田さん、コントラバスの吉田さんです。前回の活動ではヴァイオリンの三原さんに手取り足取り教えていただきました。リーダーの大垣

札幌ヴァイオリンクラブ



内さんから貸与していただいているヴァイオリンが修理中なので今はお休み中ですが、直つたらまた練習を再開したいです。

最近はお休みに誘っていただいて、海釣りに出かけています。この前は白老で船釣りをしました。サクラマスやカレイがたくさん釣れました。楽員さんには釣り好きの方が多くいらつしやるのも札幌ならではのかなあと感じます。

11月がスタートです

札幌に入団してから既にたくさん思い出がありますが、なかでも10月の釧路定期にエキストラで来てくださった松田先生と18年ぶりに共演できたことはとても嬉しかったです。



前川さんと磯釣り

10月定期のロビーコンサートではトランペットと弦楽器のアンサンブルでバッハを演奏させていただきましたがとても楽しく勉強になったので、余裕が出てきたらまたぜひ挑戦してみたいです。

10年程前からギターとトランペットでのアンサンブル活動にも力を入れておりますのでいつか皆様にも聴いていただけたら嬉しいです。

やっとスタート地点に立てたと思っているので、札幌トランペットセクション伝統のサウンドを引き継ぎ、皆様により札幌を好きになっていただけるよう日々精進いたします。今後とも私共々札幌交響楽団を何卒よろしくお願いいたします。

演奏旅行の思い出

私の札幌での思い出と言え
ば、やはり道内外を周った演奏
旅行でしょうか。自分で車を運
転して知らない土地や走った事
のない道をドライブする事が至
福のひとつである私にとって、

かなりの長距離を自分で運転し
て移動する札幌の道内旅行は本
当に幸せな時間でした。特に入
団して間もない30数年前頃は、
妻とまだ幼かった娘と3人で道
内各地の温泉に宿を取り、演奏
旅行で周った事は楽しい思い出
として記憶に残っています。

当時は、一回の演奏旅行が5
日から一週間ぐらいと

長く、旅行の途中で移
動日や休日がありました。旅費も潤沢で時間
にも心にもゆとりがあ
りました。今では行か
ないような小さな市町
村も訪れました。先方
では、オーケストラを
見た事も聴いた事もな
いような方も多くて興
味と期待がとても大き
く、演奏家真利に尽き
る思いでした。そして
本番の後は同僚達とそ
の土地の美味しい物や



かつての愛車とともに

芸術の森にて

地酒などを頂き、楽しい時を過
ごしました。それまで関西のと
あるオーケストラに在籍してい
た私にとって札幌はとても幸せ
なオーケストラに見えました。

お酒と言えば大失敗した事が
あります。やはり演奏旅行で十
勝地方のある温泉に泊まった
時でした。厳寒期の2月頃だっ
たと思いますが、同僚数人と日
本酒の一升瓶を露天風呂に持ち
込んで湯呑みで雪見酒を飲っ
たのですが、見ず知らずの宿
泊客にまで「まあ一杯などと言
って無理矢理飲ませたり、とん

でもない酔っ払い状態で瓶がす
ぐに空いてしまいました。そし
て事もあろうか、空き一升瓶を
内風呂のゴミ箱にぶん投げて帰
って来たのです。次の日は昼間
の本番だったので、二日酔
いと湯当たりで全身ポロボロの
状態で演奏しました。悪行のバ
チが当たったとしか言いようの
ない自業自得の話ですが、今で
はそれなりに歳をとった友人達
との笑い話になっています。

プライベートやオフの時間は
みんなそれぞれに楽しんでいま
すが、いざ本番となると全身全
霊を込めて演奏するのが札幌の
素晴らしい所だと思えます。北
海道の大自然からインスピレ
ーションを受け四季を感じながら
演奏する札幌は、やはり本州の
オーケストラとは一味違うと思
います。

札幌で長年演奏出来た事は私
にとつて大きな財産ですし、ず
っと支え続けて下さった札幌く
らぶの皆様には、心から感謝し
ています。本当にありがとうございます。

元札幌ヴァイオリン奏者

福井岳雄

楽譜運搬用トランクを購入

先日、札幌に「楽譜運搬用トラ
ンク」が届きました。これは1月
に「札幌くらぶ」が贈呈した楽譜
支援金で購入されたものです。
2025シーズンの開幕となる
4月定期の前日、リハーサル中
のキタラに行つて真新しい「楽
譜運搬用トランク」を見せてい
たきました。

ライブラリアンの中村大志さ
んのお話によると、「以前はアタ
シシユケース型のトランクで楽
譜を運んでいましたが、古くな
り使い勝手も悪かったので今回
新たに5台購入しました。札幌
オリジナルの特注品です。キャ
スター付の箱型トランクで重ね
ることも可能です。トランクは
中央から二分割するように開
だきました。

このトランクは並べると楽譜
棚のようになり、各パートの楽
譜が取り出しやすくなって、楽
員さんからは感謝の言葉をいた
だきました。

き、箱の中は仕切り棚が五段に
なっていて、パートごとに楽譜
を収めることができます。一つ
の演奏会の楽譜を一つのトラン
クに収納し、会場に楽器と一緒
に搬入します。

また、近く予定されている演
奏会の楽譜を、公演ごとに割当
てたトランクに収めておきま
す。それをリハーサル会場に設
置して、楽員が次の演奏会の楽
譜を自由に取り出して練習でき
るようにしています。」とのこと
でした。

このトランクは並べると楽譜
棚のようになり、各パートの楽
譜が取り出しやすくなって、楽
員さんからは感謝の言葉をいた
だきました。



ライブラリアンの中村大志さんと楽譜運搬用トランク
札幌のシンボルマークに「札幌くらぶ寄贈」と記されている

この面期的な「楽譜運搬用ト
ランク」は、運搬のみならず演奏
の向上にも一役買うことになら
んと思えます。

札幌くらぶ

事務局長 高木誠一



3公演分の楽譜が並べられていた



トランク中央に蝶番があり
二分割するように開く
棚は五段組で「パートごと」に
割り当てられている

井の中の蛙 大海の入り口を知る

諦める決断をして

ヴァイオリン教室の先生が主宰する弦楽合奏団での活動が好きで、幼いころの習い事の中でただひとつそれだけは高校生までずっと続けていました。大学受験を考える時期に音楽の道に進むか迷いましたが、好きというだけでコンクールなどの実績も何もない自分に自信が持てませんでした。未練を残しつつも音楽の道は諦め、他に興味のあった人文文学の方面で受験し、地元富山大学に進学しました。

オケマンという存在との出会い

大学の人文学部では哲学を専攻したのですが、学者にでもなろうと思わない限り、この分野で身を立てることは考えにくいこともあり、早々に勉強そっちのけでオーケストラ・サークルの活動に夢中に。まさに大学生活〓サークル活動の日々でした。

そんな中、トレーナーとしていらした新日本フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者の篠原英和さんと中矢英視さんの

井の中の蛙 海へ

指導を受ける機会がありました。先生方の演奏を間近にし、プロ奏者というのはこんなにも素晴らしいものかと衝撃を受けたのを覚えています。指導の後にお酒を飲みながらお聞きするオケマンの世界は、キラキラと輝いて見え、再び自分を音楽の道へと誘うのでした。一度は諦めた音楽の世界でしたが、挑戦しなかったことを後悔するくらいなら、追えるところまで夢を追いたい。その一心で愛知県立芸術大学の受験を決意しました。

しかし何とかたどり着いた音楽学部には自分より上手な学生ばかり。自分など「井の中の蛙」だったのだと思ひ知らされました。将来への夢より明日のレッスンに対する不安の方がはるかに大きく、焦燥感に駆られて朝から晩まで練習室に籠る日々でした。ただ、室内楽などでは自分以外のプレイヤーとひとつの音楽を作ることの楽しさを感じていました。メンバーとのやり取りの中で自分に足りないものや新たな気づきがあり、多くのことを学びました。この時期、蛙はオケマンになることを目指し、

海へとたどり着けると信じて小さな川を泳ぎだしていました。そうして多くの方々を支えられ、セントラル愛知交響楽団を経て念願の札幌交響楽団に入団することが出来ました。オケマンとなつてとびこんだ音楽の世界は本当に広くて深い海のように思えます。おそろく一生かかってその全てを知ることが出来たのかもしれないですが、初心を忘れることなく日々新たな音楽の風景を皆さまにお届け出来たらと思います。

札幌ヴァイオリン奏者

土井 奏

随想 本棚の隅から

29

早春のある日、久しぶりに「小さなコンサート」を開いた。新年のあるパーティーに、ちよつと気が引けたけど派手なジャケットを着て行ったら素敵な青年と知りあった。彼は私のジャケットが気に入って「僕にお下がりして下さい」と言う。本当に要るのかな？と、後日、確認したら本当にはほしいと言う。クリーニングをしてジャケットを持っていったら「僕、ヴァイオリンを持ってお宅に遊びに行きますよ」と言うので、私の胸の「何か楽しいことをしたい虫」が騒ぎ出した。

音がすこく響く。慌てて廊下上の階と下の階に行ってみた。シーンとしてなんの音も聞こえないのでほつとした。

麗らかな春の午後、ヴァイオリンとギターで何曲か聴いた。中にはこのギタリストが作曲した「世界初演」の曲などもあって素敵なひとときだった。そのあつと楽しかったのかもしれない。座布団に座つたり、キッチンに立つていたり、観客がたった15名のコンサートは無事に終わった。2〜3日様子を窺っていたが、どこからも何も言っていなかった。これに味を占めて、また何かしたくなつたが、自分の体力と寿命を考えてあまり先のことは考えないでおこう。

それにしても、いまだきの若者は背中にスパンコールの薔薇が似合うんだ…。

来年の私はベージュ(米寿)のジャケットでも着ようかな？

会員／井上明子



1992年 富山大学2年
富山大学フィルハーモニー管弦楽団
新入生勧誘のためのカルテット演奏(第一ヴァイオリン・土井)



1997年 愛知県立芸術大学3年
パルトーク・カルテットの公開レッスン(第一ヴァイオリン・土井)

以前に住んでいた家なら30人位のパーティーができたけれど、今のマンションでは何人はいれるかな、それよりも、音は大丈夫かなと思ひ、昔から住んでいるご婦人に相談したら、「大丈夫よ、私の家では子供たちがピアノを弾いていたのよ。この建物は倉庫の会社が建てたから頑丈なの」と言うので、もし、誰かが「うるさい」と怒鳴り込んで来たら即中止しようということ、世界最小のサロンコンサートを開くことにした。

当日、コンクリートの部屋は

僕の愛聴盤⑬

青春の甘酸っぱいつづみやきと
ほろ苦さを詩情豊かに表現

○歌曲集「詩人の恋」全16曲

(シューマン)

フリッツ・ウンダーリッヒ

(テノール)

フーベルト・ギーゼン

(ピアノ)

(66年録音)



道端や川辺に所せましと咲き
乱れる野生の花々、庭先を華麗
に染めるツツジ、ライラック、コ
ブシ等々が散策者の目を楽しま
せる五月の到来。北海道と氣候
が似ているといわれるドイツに
住む人々も、永い冬から解放さ
れた喜びを詩に詠み、この季節
のすばらしさを称えてきた。ゲ
ーテ、シラー、ミユッセ、ヘルダ
ーリンの名が即座に浮かび上が
る。
草花の香りでむせ返る空気を
胸の奥深くまで吸い込み、躍動
し始めた生命力を五感で受け止
めた僕は、散策から帰宅すると
いつも一枚のディスクに手を伸
ばす。この季節には必ず耳を傾

ヴァイオリン奏者 福井岳雄さん

2月退団

長い間ありがとうございました



ける『詩人の恋』である。

ハインリッヒ・ハイネの詩に
シューマンが水も滴るような音
楽を注入したこの歌曲集は、永
い間ロマン派音楽最高傑作の地
位を維持してきた。夢見るよう
なピアノ伴奏に支えられながら
繰り広げられる青春の甘酸っぱ
い眩きは、ロマン派の申し子シ
ューマンの面目躍如であろう。
特に第1曲「美しい五月に」
Im wunderschönen Monat Mai
がいい。

リニコ・レンツェエロ・テノー
ルのウンダーリッヒが66年に
録音したディスクは、大人にな
りかけの少年の心をどれだけと
らえただろうか。ドイツ人テノ
ールとしては破格の美声に加
え、端正な歌唱スタイルと鼻に
かかる悩ましいビブラートに接
するたびに、僕は青春の「時」を
放浪し、憧れいっぱいの喜びに
心地よいめまいを覚えたものだ
った。理屈抜きに素晴らしい。
35歳で夭折した不世出のテノ
ール最高の遺産となっている。
5月のそよ風にのせて、憧れ
に満ちた想いを恋する人のもと
へ届ける「アデライデ」(バー
トヴェン)と一緒に収録され
ているのも嬉しい限りである。

会員/村岡範男

運営スタッフ活動報告

下半期(10月~3月)

スタッフの声

▼新聞の文字に目が止まった。「向
こうを慮れる」とあった。は何
とよむのだろうか。ありがたい
事にながらふつてあった。「慮れ
る」は「おもんばかれる」と読む。
辞書を引くと、「慮る」は「よく
よく考える、あれこれと思いつ
ぐらす」と。「へえ、そうなん
だ」と納得。読めない漢字、知ら
ない漢字があった時、漢和辞典
をひらくようにしている。国語
辞典もちろんありがたい存在
である。(橋)

○10月20日(日)

札幌市内中学生招待活動

東白石中学校 21名

茶話会「札幌くらぶカフェ」

○10月21日(月)

運営会議 14名出席

○11月25日(月)

会報107号発行

運営会議 11名出席

○11月26日(火)

エアスタジオ

記者発表会

出席:高木、多田

○11月30日(土)

札幌市内中学生招待活動

HBCジュニアオーケストラ 7名

○12月1日(日)

茶話会「札幌くらぶカフェ」

○12月16日(月)

運営会議 17名出席

○1月13日(月・祝)

第41回札幌くらぶサロン

豊平館 54名参加

第一部 札幌定期ブレトック

札幌くらぶ顧問

八木幸三さん

第二部

ニッペーサロンコンサート

ホルン 花澤良平さん

ピアノ 永沼絵里香さん

第三部

ニッペー交流パーティー

2024年度楽譜支援金贈呈

○1月25日(土)

札幌市内中学生招待活動

HBCジュニアオーケストラ 24名

○1月26日(日)

茶話会「札幌くらぶカフェ」

○1月27日(月)

運営会議 11名出席

○2月17日(月)

会報108号発行

○2月21日(金)

運営会議 13名出席

○2月22日(土)

第67回定期演奏会の
練習見学会参加

○2月23日(日)

札幌市内中学生招待活動

手稲中学校 26名

○2月23日(日)

札幌市内中学生招待活動

南が丘中学校 23名

○3月17日(月)

茶話会「札幌くらぶカフェ」

運営会議 15名出席

▼私はひとの歌声が好きです。ソ
ロの歌だけではなく、合唱を聴
くのがとても好き。人間の声の
ハーモニーというのは、なぜこ
んなにも心満たすものなのでし
ょう。鳥の囀りと同じ、ずっと耳
を傾けていたくなるのです。札
響合唱団の皆さんのパフォーマ
ンスにはいつも感心させられ:
近年では、バーメルトさんによ
る「戦時のミサ」(ハイドン)が
特に印象的でした。今シーズン
定期演奏会最初の演目も堪能。
これからも、札幌演奏会で歌の
あるプログラムを楽しみにして
います。(枡久保)